

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ばっそ				公表日	令和7年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		年齢や人数、児童の状態に合わせて、部屋を分ける等の対応を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員は、基準より多く配置しているが作業療法士と言語聴覚士が1名ずつしかいない為、体調不良等で休む場合の個別療育の振替を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		施設内は、バリアフリー化されている。また、各部屋にマークを付ける等して分かりやすくしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎朝、清掃を行い、室内を清潔に保つことが出来るようにしている。また、感染症拡大防止の為、消毒もやっている。活動や利用人数に合わせて、部屋を変更している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		児童の状態に合わせて、部屋を分ける等の対応を行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎週、作業療法士・言語聴覚士・保育士・児童指導員によるミーティングを行っている。送迎等の業務の関係上、全員がミーティングに参加出来ない場合もあるので会議録を活用している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者等評価表以外にも、保護者の方との面談を取り入れ、ご意向等を確認し、改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎週、作業療法士・言語聴覚士・保育士・児童指導員によるミーティングを行っている。送迎等の業務の関係上、全員がミーティングに参加出来ない場合もあるので会議録を活用している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部からの評価を受けることが出来るように、今後、検討を行っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		虐待防止や身体拘束等や障がい特性等の研修を実施している。就労や就学、福祉制度に関する研修も行っている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上に公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的に保護者の方と面談を行い、ニーズの確認や家庭での様子等を確認している。また、必要な事項について個別支援計画に反映させるようにしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議を実施し、全職員の意見を聞いて、共通理解の下で個別支援計画を作成している。その際に、こどもにとって何が最善の利益になるのか、という視点を持って行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		各児童に応じた取り組みを実施している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		事業所で作成したアセスメントツールを活用している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各分野に分けた支援計画を作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		保育士・児童指導員が活動プログラムを検討し、実施しているがチームとしては不十分な面もあり、会議等で情報の共有を行っていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動の内容がマンネリ化しないよう、検討をしている。また、児童の状態によって臨機応変に変更するようにもしている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別療育や集団療育を実施しており、児童発達支援計画も作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日、朝礼を実施しており、必要に応じて具体的な児童への対応等についての話を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に、各職員で気付いたことや振り返りを行っている。ミーティングも行っているが不十分な面もある為、精査をして方法を変えていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎日、記録を作成している。また、記録を読み返す等して、児童への対応の工夫に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを行っている。児童の状況に合わせて見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っている。地域交流に関しても、近隣の大学と合同企画を実施する等、少しずつ対応している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	意思決定や自己選択の場面では、口頭だけでなく、写真や絵カード等を準備して、視覚的なアプローチもしている。また、絵カード等意思表示へのツールとしても理解出来るように支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者が担当者会議等に参加している。状況に合わせて集団療育の職員も同行させている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	必要に応じて、子育て支援課等との連携を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者の方を通して、学校行事や下校時間等の把握を行っている。また、必要に応じて、学校等へ連絡を行っている。学校の安心メール登録をしていることで対応が出来る。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	各関係機関と連絡したり、必要に応じて所属機関へ訪問したりして情報の共有を行っている。保護者の方のご希望に合わせて、情報提供書を作成する等している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	保護者の方のご希望に合わせて、情報提供書を作成したり、訪問し情報提供を行ったりしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	周辺地域には児童発達支援センターが3件あり、当事業所と利用を併用している児童もいる為、情報共有等を行っている。	発達障がい者支援センターの運営を当法人が受けており、必要に応じて助言を受けたり、保護者同意の下、情報共有を行っているが、ケースは少ないので、もっと活用をしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		現在のところ、交流の場の提供が行えていない。近隣の学童保育等と交流が出来るような活動内容の検討を行う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	広川町障がい者自立支援協議会の子ども支援部会へ参加をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	利用時には、保護者の方へ状況や活動の様子を伝えるようにしている。また、連絡帳やLINE等を活用して情報交換を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	親子で参加する行事や学習会などを開催した。今後も、実施していく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に、説明を行っている、また、保護者の方からのお問い合わせがあった際には、即時、対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	保護者の方との意見交換を日頃から行い、ニーズに応じた個別支援計画を作成し、サービスを提供している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者の方から相談のご要望があった際には、早期に時間を取り相談を受けている。また、療育後に保護者の方と振り返りをする時間を設け、支援内容や療育の助言を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会や学習会などを開催した。また、きょうだい児も参加出来るイベント（ハロウィン・クリスマス会等）も実施している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		ご意見を頂いた際には、早急に検討を行い、対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページや地域の情報サイト（まいぶれ八女）を活用して活動の様子等を配信するようにしている。LINEによる連絡体制の強化を行っている。不定期ではあるが、行事や職員研修の情報なども配信している。	SNS等を活用している事自体を知らない保護者の方がいるので、今後、周知していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童とのやり取りについては、写真や絵カード等を準備して、コミュニケーションの工夫を行っている。保護者とはLINE等でのやり取りをして情報共有もしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今年度、地域住民の方を招待するイベント（春祭り）を実施した。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、各分野で問題発生を想定した訓練や研修を実施している。	マニュアルの設置場所を分かりやすく工夫し閲覧して頂けるようにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		感染症と自然災害の業務継続計画（BCP）を策定している。今年度より業務継続計画（BCP）に関する研修と訓練も行っている。また、年2回、避難訓練等を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		投薬は行っていない。予防接種やてんかん発作については、来所時に保護者の方と話をするようにしており、把握できている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師からの指示書までは頂いてはいない。保護者の方には、食物アレルギー等について必ず確認を行い、配慮徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、計画に基づき研修や訓練等を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画に基づく取組内容について、家族等への周知が不十分な所があるので、今後、周知を徹底していく。（SNS等の活用も含め）
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった際には記載し、情報を共有するようにしている。定期的にヒヤリハットの事例について、話し合いも行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を行う必要がある場面に遭遇していない。今後、必要場合は、施設内で十分に検討し、児童や保護者の方へ事前に説明し了解を得たうえで、児童発達支援計画に記載し、記録する。また、事後検討も行っていく。		